

令和 6 年度 第 1 回 倶知安町自転車活用推進協議会

日 時：令和 6 年 8 月 1 日(木) 13:30～15:00

場 所：倶知安町役場 2 階会議室

1. 開会（事務局）

2. 委員委嘱

- ・ 委員への委嘱状の交付及び出席者の紹介

3. 挨拶（会長）

- ・ 会長挨拶

4. 議事

（1）倶知安町自転車活用推進協議会について

（事務局）

- ・ 倶知安町自転車活用推進協議会設置要綱により、協議会設置の趣旨や組織について説明
- ・ 質問なし

（2）地方版自転車活用推進計画の概要について

（事務局）

- ・ 国および北海道の自転車活用推進計画について説明
- ・ 質問なし

（3）倶知安町における自転車活用推進施策の方向性について

（事務局）

- ・ 倶知安町自転車活用推進計画の方向性（下記①～④）、自転車ネットワーク計画の対象エリアの設定、ウェブアンケートの実施について説明
 - ①自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成
 - ②サイクルスポーツの振興等による活力ある健康長寿社会の実現
 - ③サイクルツーリズム推進による観光地としての魅力向上
 - ④自転車事故のない安全で安心な社会の実現

（委員（代理））

- ・ 「自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成」とある。「役割拡大」の「役割」とは一般的には移動手段があると思うが、それ以外に国は健康増進の手段などとしても位置付けている。移動手段以外の役割を持たせることによる「良好な都市環境の形成」という部分がピンとこない。それ以外に違う役割を想定されているのであれば、教えていただきたい。

(事務局)

- ・ 「都市環境」として駐輪場やシェアサイクル、あるいは走行環境等が挙げられている。どのような都市環境を望まれているかという部分にはなるが、そのような取組を検討していくことになる。

(委員（代理）)

- ・ つまり、国の施策とイコールで一度考え、俱知安町として落とし込むところまではいわずに全体としてまずは考えるという進め方ということか。

(事務局)

- ・ そのとおりである。本日の目的は、先ほど挙げさせていただいた4つの方向性で進めさせていただきたいというところではある。取組についても、国や北海道、その他の自治体の計画を参考にさせていただくことは大いにあると思う。ただ、具体的な施策については、委員の皆様の声やウェブアンケート等から吸い上げて実施していきたいと考えている。

(会長)

- ・ 4つの方向性については、国が示している計画の目標を参考にしながら考えており、おおむねの考え方は国と同じであると思っている。ただ、個別具体の取組・施策は各地域にあったことをやっていかなければならない。それは他を真似するのではなく、地域に合った取組を町として考えていこうという意味で、あくまでもこれは柱・構想としてご提案しているところである。方向性が決まらない中では、具体的な議論はできないため、まずは4つの方向性を決めさせていただきたいと思う。

(一同)

- ・ 異議なし

(会長)

- ・ 俱知安町自転車活用推進計画の方向性は事務局が説明した4つの柱で決定とさせていただく。

- ・ 方向性に沿った具体的な取組については、事務局で期限を定めて、各団体の皆からご意見をいただき、それを集約して皆様方に戻していくような進め方でやりたいと考えている。今の段階で、具体的な取組についてお持ちの考えがあればご意見いただきたい。

(委員)

- ・ 道路交通ルールに則った自転車の乗り方を学ぶのは、倶知安町の場合は小学校だが、自転車は道路を走って移動するものだという考えはなく、街の中を走行する際の交通ルールとして学んでいる。それだけではなく、幼稚園の頃から道路は共有のものだという「自転車と車の共有」ということを考えていくと道交法の前に道路を共有することが頭に刷り込まれるので運転者となったときに交通ルールが先に来るのではなく道路を共有するという意識が強くなると思う。それは道路だけではなく山道で自転車乗ったり対向車に対しても共有したりするという気持ちが生まれると思うため、幼稚園から道徳的なことで教えていくことが自転車の普及と安全に一番つながるのと思う。その点を盛り込んでいただきたい。

(会長)

- ・ 今の委員のご意見は、小さい頃から教育が必要だという意味合いであるか。

(委員)

- ・ そのとおりである。一昨日にニュースで海外の海の事故の話をしてしたが、やはり幼稚園など幼少の頃から海は危険だということを教えることによって、意識が無意識の中に刷り込まれるため、川や海の事故が少なくなっているということを言っていた。それと同様のことが自転車にも言えると思う。
- ・ 小さいときから道路を共有することや共有すること自体を教えておくと、道路だけではなくて色々なことにも繋がると思う。そのため、幼少の頃からそういったことを教えていくことができれば生活自体が変わって、街の道路を自転車が通ることにもつながるのではないかと思う。

(委員)

- ・ 確かに子どもの頃からというのも非常に重要だと思うが、同時に家庭のことを考えると親が守っていないものを子どもが守るのかという話になるため、そこは多面的に考えていかないといけないと思っている。
- ・ この地域は自動車教習所があるため、教習所の人にもできれば今回の協議会に関わっていただけたらと思っていた。自転車の運転免許を取るというという段階においても、シェアザロードという部分の意識づけは必要だと思う。

- ・ 最近、子どもにはヘルメットをかぶせるが、自分はヘルメットをかぶってない親を見かける。また、特に学区付近での逆走がとても気になる。そして、左側通行ではない人や歩道を走っている子どもたちがいる。あまり交通量が多くはないところでそこまで厳しくするのもどうなのかと思いつつ、特に大人が会社帰りに逆走してくるのを見ると、どうにかした方が良いのではないかと思う部分もあるため、そのような意味で言うと、自転車事故のない安全で安心な社会の実現という部分でルールを守ることが重要となる。
- ・ 私が小学校3年生の頃には自転車運転免許証というものがあった。各学校で学科を受けて70点以上取って初めて実地に行けるようになる。グラウンドには模擬信号や歩道があり、板の上をまっすぐ落ちないように走るというような試験をパスすると免許がもらえて、その免許があれば学区を越えて倶知安町内を自転車で走ることができるというものがあった。
- ・ 最近は、複数名でないと自転車で学区を超えてはいけないというルールを倶知安町の学校でも目にするが、そこは少し勇気を持って、車に対しても親に対しても子どもに対しても、少しそういう意味での教育という部分と、教育に伴う活動範囲の拡大など、全体的な枠の中で自転車の活用、もしくは安心して安全に心がける自転車での移動という部分について考えていった方が良いのではないかなと感じている。

(会長)

- ・ 学校での、子どもたちに対する自転車教室などは開催されているのか。

(委員)

- ・ 1日だけやっている。警察官の方に来ていただき、学校の周りだけを特定の学年の子が自転車で周り、グラウンドで座学的な部分を教えているだけである。
- ・ 今回は、交通安全協会から低学年へのヘルメットの配布があったため、かなりヘルメットをかぶる子は見えてきたが、それでもかぶらない子はかぶらない。学校界限は右も左もなく楽しんで走っており、ましてやそれに自分の親がルールとして守ってなければ、定着はしないと思っている。

(会長)

- ・ 今、委員から貴重なお話をいただいたが、今年から新入学生に対するヘルメットの配布という取組を始めており、非常に良いことだと思っている。当然、そのようなことを継続的に実施していくのであれば、この計画に載せていくべきであるし、さらにルールなどについて、今のご意見なども踏まえながら具体的にどうやって行くのかを計画に載せていくべきであると感じた。

- ・ 先ほど申し上げたとおり、今すぐここで全部出してほしいと申しているわけではない。もっとこういうことやったら良い、あるいはこのまちであればこういうことが必要だということを各団体に持ち帰って意見を募ったり、自転車の仲間の中で出てきたようなお話を具体的な取組として出していただいても構わない。
- ・ 出された意見の良し悪しはその場では判断しない。それらがまとまった段階で、最終的に皆様にお返しして、総合的に判断していきたいと思う。その中には時間のかかるもの、すぐにできるもの、既に行っているものなど色々なものがあると思う。この計画の中では、どこから重点的にやっていくのか、来年は何をやるのかというようなことを、本協議会の中で判断しながら、予算が必要であれば予算措置をしていくというような流れで進めさせていただきたいと思っている。

(委員)

- ・ ヘルメットを今年から小学校の新入生に配布した理由の一つは、先ほど別委員がおっしゃったとおり、子どもの頃からの意識を高めて、彼らが大人になった時にヘルメットの必要性を感じてもらおうということである。別委員がおっしゃっていたがルールを一番守らないのは大人であり、特に自転車の走行ルールについては、私もロードバイクで国道の車道を走っていると「路肩を走りなさい」などと言われる。自転車は普通車両であるにもかかわらず、「横断歩道を走りなさい」と平気で後ろから言ってくる。全国的にその程度のレベルのため、自転車の環境整備ももちろんだが、位置づけを上げていく一つのツールとしてこの自転車活用推進計画が出てくると思う。立場上、条例にしても良いくらいだと思っている。
- ・ 方向性が4つあるが、①～③は、既に色々と進めている。例えばYNCAでは路肩の整備をして走行環境を整えることやサインをつけることなどを実施している。また、ロードバイクやマウンテンバイク、ツインピークスでやっているようなオフロード系のバイクなどは多様性があり、住民や訪れる人が自分に合った自転車の乗り方をしようということをしているが、根底には方向性④が非常に重要である。せっかくそのような整備をして愛好家が来たり、町民が自転車を活用したりしても、ルールが守れていなければいけないため、私は方向性①～③も大事だと思うが、その根底の④をしっかりやっていかないと、ただ作っただけものになってしまうのではないかと感じている。その中には、先ほど申し上げた、子どもたちの教育と大人に対しても免許更新の安全講習などに自転車のこともしっかり話すなどの取組をやっていくと非常に安心して利用できると思う。
- ・ 進めていく中で一緒に自転車でされているが、【資料2】に12時間自転車交通量があり、これを見ると圧倒的に市街地での利用が多い。12時間で500台近く通っており、利用によって対策も変わってくるということも考えてこれからやっていかないといけないと思う。

- ・ ここにいる皆様は自転車で全道各地を走り回っておりネットワークがあり、特に普段は羊蹄山麓を回っている。他市町村との連携もどのように進めていくかというのも今後考えていかないといけないと思う。

(会長)

- ・ 方向性の重要度と取組の優先度というのも重要であり、これから取組が出てきた段階で何を優先してやるかということについても今後の協議会で決め、その目標に向けて課題を解決していくという流れとなる。

(委員)

- ・ 自転車保険を計画に載せた方が良いと思う。特に今回の計画はコアな方と一般の裾野で自転車をやっている方、全ての方に対して計画を立てると思う。以前から自転車に乗っている方は当然保険に入っていると思うが、先ほどの話にあったマナーの悪い大人などが何か事故を起こして、保険に入っていないと相手にお金を払えないということも重々あると思うため、まずは計画の中で自転車保険に入りましょうということを記載していただくことが良いと思う。

(委員)

- ・ 今の点は非常に重要で私もぜひ入れるべきだと思うが、前提としてお伺いしたいのは、北海道の条例で自転車保険加入が努力義務に既になっているのではないか。その場合、いきなり義務という表現はどうかと思う。義務というところを全面に押し出すかどうかというのは考える必要があるとしても、この点は重要であると思う。

(会長)

- ・ 努力義務ということであれば、加入促進の取組というような書き方になると思うが、その辺も調べて調整させていただく。

(事務局)

- ・ 北海道自転車条例では、「自転車貸付業者等に対し自転車損害賠償保険等への加入を義務付け、自転車利用者は努力義務」となっている。また、道民の自転車損害賠償保険等への加入率は5割程度である。

(会長)

- ・ 自転車保険と別に個人で入っている損害賠償保険があるが、あれは対象になるのか。

(委員)

- ・ 対象である。自動車保険付帯の賠償保険やクレジットカード付帯もあり、そういったものに入っておけば要件を満たすということになると思う。ただ、自転車保険と言うと、それらにプラスアルファで自分が怪我をしたときの保障や車体が壊れたときの保障などが付いているため、そういったものが付いていると自転車保険という言い方をしている。

(会長)

- ・ 大変参考になった。先ほどから申し上げているとおり、後ほど皆様方から改めて今回発言された内容以外のことについて事務局の方で集約させていただきたいと思う。
- ・ ネットワーク計画の対象エリアの設定については、各団体の具体的なご意見は、図面を見ながらヒアリングをしていきたいと考えているため、その際に意見をいただきたい。
- ・ ネットワーク計画の対象エリアの設定に関する進め方について、ご意見等はないか。

(一同)

- ・ 異議なし

(会長)

- ・ 最後にウェブアンケートの項目等についてご説明したが、本アンケートの内容については今日この場で決めさせていただき、準備を進めたいと考えているため、ご意見を出していただきたい。

(委員)

- ・ 先ほどの自転車保険について、加入状況などをアンケート項目に入れてほしい。

(委員)

- ・ 内容的には大筋はこれで良いと思う。しかし、アンケートの取り方が「町 HP・SNS 等による周知実施」では薄いと思う。特に児童生徒を含むのであれば、紙媒体になるが、学校から生徒に配っていただき、さらに児童生徒の親にも経由して答えてもらえるような状況を作っていただきたい。

(委員)

- ・ 今いただいたご意見について、タブレット等で学校アンケート等を取ることもあるため、学校の校長会・教頭会と相談させていただいて実施できればと思う。

(会長)

- ・ アンケートの内容に、保険の加入状況等も確認できるような項目を入れるということ、アンケートの取り方に関して、小中学生についてはタブレットでの一斉配信であれば回答も集まりやすく、それをデータ分析することもできる。それらを上手く活用しながらアンケートの回答数を増やしたいと考える。

(委員)

- ・ アンケート対象者に観光客が挙げられているが、当会では駅での自転車の貸出をおこなっているため、どの程度の利用数なのかについては、別途調べてみる。期間も限られており、作り直すのにもコストがかかるということは十分分かっているが、もう少し観光客目線にする必要がある。実際にレンタサイクルを乗られた方は、おそらくこの地域の人ではなく、住んでいる人や普段から走っている人とは違う観点で道路を見ると思うため、もう少し短くというか、違う形でアンケートができれば良いと思う。自転車を借りる前にこのアンケートをやるかどうか疑問に思うため、検討できるようにであればしていただきたい。

(会長)

- ・ 当然、アンケートは町民だけではなく、この街で自転車に乗る方を対象とするべきだと思う。観光客に対してどのような取り方をすれば良いのかということは重要であり、より回答しやすいような方法を検討する必要がある。観光客向けの取り方も考えていきたい。

(委員)

- ・ 別委員の所属する団体で実施するイベント時に参加者に配布してもらえば良いのではないか。

(会長)

- ・ そのようなイベントにあわせて参加者の声を聞くこともお願いしたい。その辺りについては、事務局と団体とで調整して、いかに簡単にできるかを検討していく。

(委員)

- ・ 観光客と住民とでは目線が変わるため、アンケート内容は分けた方が良いと思う。

(会長)

- ・ それらも含めて調整し、最終的なアンケートの内容はアンケート実施前に皆様に共有させていただく。

(事務局)

- ・ 町民の方と観光客では目線は違う部分があると思う。アンケートが1つでないといけないという理由もないため、重複する質問もあると思うが、回答を多く集めてこそという面もあるため、そこについては対応させていただく。

(委員)

- ・ 観光客に回答してもらうのには、何かしらのインセンティブがあると答えやすくなると思う。「回答していただいた方は、抽選で、〇〇が〇〇します」といったようなものがあつた方が良く思う。
- ・ 基本案は事務局中心に検討すると思うが、それで決定しましたというよりは、事前に関係する委員で、過不足を確認してもらってから決めてもらえれば良いと思う。

(会長)

- ・ 今後のスケジュールの中でも、進め方については触れようかと思う。まずは、このアンケートについて意見があれば伺いたい。

(委員)

- ・ アンケートの取り方について、ウェブというのはホームページにリンクを貼るとか、QRコードを読み取るといった感じで取るということか。

(事務局)

- ・ 基本的にはホームページの方にリンクを貼ってアンケートフォームに飛ばすことを想定していた。そのほかに、Facebook や町民向け LINE でも周知はできるため、そこは今考えているところである。

(委員)

- ・ QRコードからスマホで回答できるのであれば、1枚の紙だけで実施することや町の広報自体にQRコードを貼り付けるということもできると思う。
- ・ このアンケートは、小中学生にも取るということか。小中学生向けのものに変えるということか。現在の表現はかなり大人向けだと思う。また、低学年、中学年、高学年でかなり変わってくる可能性もある。

(事務局)

- ・ おっしゃるとおりである。先ほど他委員がおっしゃったような、町民や観光客向けに加えて、大人が通勤や買い物に行くときに感じる危険と、子どもたちが遊んだり、通学したりする上での危険な理由というのは異なると思うため、そこも分けて良いと思う。大

枠としては、お配りしている資料になるかと思うが、感じ方はそれぞれ違うと思うため、違った形式でそれぞれに向けたアンケートを作っていきたいと思う。

(委員)

- ・ 当団体では年間 4 イベントをやっており、ざっと年間 4 イベントで延べ約 2,000 人の参加者がいらっしゃっており、イベント開催が終わった後には漏れなくアンケートを参加者に対して取っている。満足度や観光の部分で聞き取りしたい部分にフォーカスしているが、今回ご提案いただいたアンケートに関しても中に盛り込んで取ることは可能であるし、むしろそのやり方であればサンプル数でかなりの回答をいただけたと思う。
- ・ ただ、この資料を拝見すると、参加者目線からずれているところもあるため、そのような属性の方に適している質問などがあれば、逆にこういうことを聞いてほしいというアンケートの内容をいただければ、こちらの方で準備してやることは全然できるため、その辺はこの会議の中ではなくて、改めてお知らせいただければと思う。

(会長)

- ・ 今回取るアンケートというのは、具体的施策等に結びつけるためのアンケートであるが、せっかく本町ではそのような大きなイベントをやっているため、このようなアンケートは毎年取り、取組に対する効果測定に使えば良いと感じた。今後についてもアンケートは定期的にやっていきたいと考えている。

(4) 今後のスケジュールについて

(事務局)

- ・ **【資料 5】** をもとに、今後のスケジュールについて説明
- ・ 質問なし

(5) その他

(会長)

- ・ それでは、その他ということで皆様の方から質問等はないか。

(委員)

- ・ 次回以降は、可能であれば会議に使う資料を遅くても 1 週間くらい前にはデータなどでいただいた上で、協議事項をあらかじめ教えていただきたい。

(事務局)

- ・ 今回は、案内から開催までの時間が短く、皆様には大変ご迷惑をおかけした。会議の資料についても、今後は事前に電子データでお配りし、ご確認いただいてから集まっていたくことで、集まったときに意見交換をしていただけるように、こちらも準備を進めて参りたい。

(6) 閉会